

崖地の造成工事中に 施工業者が撤収

横浜市金沢区の別現場へ移動

切土斜面の放置に住民の不安高まる



今年初め、荒川建設が施行業者・湘南建設に始めさせた造成工事は、工事説明も、家屋調査もないままの強行着手でした。それから半年、6月30日付で、突然「工事上の事情により、一時中断する」との告知を行いました。

この「事情」とは何か？すぐにわかりました。横浜市金沢区六浦の崖地で7年越しに続いている地下室マンション反対運動現場で6月始めに工事説明会が行われました。

施主の荒川が工事施工業者と紹介したのが湘南建設だったのです。工事期間が6月から1年間。川崎・柿生では工事休止期間は約半年といわれているのですから、もし実行すれば、今度は六浦の工事を途中でほっぽり出すことになります。

ゼネコン見つからず、建築工事に入れない

荒川建設がこんな綱渡りの事業推進に追い込まれている真の事情も想像に難しくありません。湘南建設が半年間行ってきた工事は開発許可に基づく造成工事のみです。建築確認をいまだに取得していないのですから、通常連続して行われる建築工事には手を出せません。

建設費高騰、深刻な職人不足という建設業界を覆う暗雲は当分晴れそうもありません。裁判など反対運動リスクを抱え、事業途中でプロジェクトを丸ごと他社に売却するビジネスモデルの荒川の工事施工を受けるゼネコンが見つからない、というのが「真の事情」と思われます。

危険いっぱい、放置された建設現場

造成土木工事の休止・撤収の後に残されたのは崖の崩落や土砂災害の危険むき出しの現場です。垂直な切土部分の一部がえぐり取られている不安な写真を建築、土木の専門家にお見せすると、「土丹層という硬い地層にサンドイッチ状にはさまれた砂層がえぐられている。これが外の雨で削られたのならブルーシートを掛けることで済むが、内側の浸透水によって押し出されたのなら（パイピング現象）崖が崩落する危険がある」との共通の見解が示されました。

また、撤収にあわせて、工事車両走行路などに敷いた

鉄板なども、リース代節約のため引き上げてしまいました。住民の不安は募るばかりです。

住民の安全に責任を負うはずの行政は

「住環境を守る会」は開発

許可を下ろした行政に対し、荒川に安全対策をとらせるよう迫って交渉しました。これまで荒川には腫れ物にさわるといわれるような弱腰の対応に終始してきた行政も現場に入って指導を行い、撤収を1週間伸ばしてブルーシート養生などの対応を行わせることになりました。

しかし、肝心の「切土部分のえぐれ」については、ブルーシートで十分とする荒川の言い分を覆すに至っていません。

地元「守る会」も6月29日に住民集会を開催し、工事休止に伴う安全対策の徹底と、計画そのもの変更を求める闘いの継続のため、がんばる決意を確認しあいました。



◇高津区久本
荒川建設地下室
マンション、施工
◇麻生区柿生の里
ニッパツ緑地破壊
マンション
施工予定
ゼネコン

南海辰村建設
スキャンダル
発覚

超手抜き工事で、前代未聞の欠陥
だらけマンション（滋賀県大津）

○ユーチューブ動画

<https://www.youtube.com/watch?v=LT8afcRppUU>

「柿生の里/ニッパツマンション」
「ゴールドクレスト/アセス逃れマンション」
「高津区子母口/(株) 成建/分割開発」

請願・陳情の委員会審議 月末に集中
傍聴して見守ろう！

まち連 第146回連絡会

・日時 7月30日(水) P.M.6:30
・会場 ふるさと館 第2会議室